

森林やまがた

No. 57

2001 12月



第53回全国植樹祭記念「林道マラソン in 県民の森」

目次

第53回全国植樹祭記念	現地ルポ
「林道マラソンin県民の森」… 1	健康食きのこをもっと食べよう… 8
「林道マラソンin県民の森」 盛大に開催…………… 2	木質残材の現状と利用状況について… 9
「葉付き乾燥材フェア」開催される… 3	山形県の名水・湧水……………10
自然のすばらしさに感謝………… 4	山形県の古木・名木……………10
伝えたい昔の遊び…………… 5	平成14年新春林政懇談会開催のご案内…11
森林の魅力を伝える「森の案内人」 研修会の開催…………… 6	山形県木炭品評会・講演会 炭焼き体験ツアーのご案内…11
山形県緑を育てる女性の会設立十周年… 7	木材市況……………12



第53回全国植樹祭

感じていますか 森があるしあわせ

第53回全国植樹祭記念 「林道マラソンin県民の森」盛大に開催

金山町の遊学の森で来年六月二日に開かれる第五十三回全国植樹祭を記念した「林道マラソンin県民の森」が十月二十一日、山形市と山辺町にまたがる県民の森で開催されました。当日はさわやかに晴れわたった秋空のもと、八百五十名余りのランナーが出場し、集合場所となったはんの木広場は大変な賑わいでした。

昨年につき、二回目の開催となった本大会には、世界選手権銀メダリストの市橋有里選手がゲストランナーとして参加しました。世界レベルの走りを間近で感じられるとあって、遠くは東京都から、また一歳から七十五歳まで幅広い皆さんから参加



ゲストランナー 市橋有里選手

していただきました。

今回は、県民の森の林道を走る10km、5km、2kmのコースを設定しました。

10kmコースには市橋有里選手をはじめ、健脚に自信のある百四十名が出場し、ミスフルーツが運転する電気自動車の先導で紅葉の中を駆け抜けていきました。

この車は、山形県内の企業で製作されたもので、かわいい外見から子供たちの人気者となりました。

一方、2kmコースには親子を中心とした六百名余りがエントリーし、爽やかな汗を流していました。

参加した選手には、高原ダイコン・シイタケ・ナメコの参加賞が配られたほか、真室川産のナメコを使ったキノコ汁も振る舞われ、実りの秋も満喫していただいたところです。

また、レース後は併催イベントとして、市橋選手のトークショーや、森林に関する問題を題材にした「森林〇×クイズ」、森の中にある自然の素材を使ったクラフトワーク教室、お祭り屋台村、秋の収穫物販売などもあり、応援に来た方も楽しめる大会となりました。



2km コースのスタート

なお、来年も開催する予定です。参加とご協力をお願いします。

〔県森林課〕

「葉付き乾燥材フェア」開催される

プレドライウッドの普及に向けて

県森林組合連合会の最大の共
販事業である、秋季優良原木展
示即売会が去る十月二十五日に
木材流通センター（天童市荒谷
地内）において行われました。

即売会では、今年で三回目と

なった「山形県葉付き乾燥材フ
エア」も併せて開催されました。

県では、品質の優れた乾燥材
を安定供給し、県産木材の利用

促進を図るために、本年五月に

「山形県葉付き乾燥材生産方
針」を策定し、十年後の平成二

十二年度の生産量を現在の千㎡
から五万㎡に推進していくこと

を目標にしております。

出展材一〇九二㎡のうち葉付

き乾燥材は、五六五㎡と全体の

五二%と昨年の一〇六㎡に比べ
て五倍弱の出品量となり、葉付



セリ状況

き乾燥材の生産に対
する森林所有者の意
欲も現れて来ており
ます。今回は鶴岡市、
戸沢村、西川町、大
江町、川西町、南陽
市など県内各地より
集材されました。
また、買い方も、



葉付き乾燥実施状況

県内外から約七十名と大勢の参
加者がありフェアを盛り上げて
いました。

葉付き乾燥材を一般材との差
別化を図るため、はい積みされ
た材に、葉付き乾燥材認証マー
クや、生産地・含水率等を表示
したラベルを貼付しました。
落札率については、一般材が
三九%であったのに比べ、葉付
き乾燥材については七二%と売



プレドライウッド出品状況

れ行きも上々でありました。
また、競り合う場面も見られ
価格的にも高値で取引され、普
及推進に大きな弾みになるの
はないかと期待しています。

県では、葉付き乾燥材を「プ
レドライウッド」と愛称を定め
普及に努めています。今後も
パンフレットなどにより一層の
啓発を進めてまいります。
〔県森林課〕



真室川町立真室川小学校
六年 中 川 裕 太

今年で緑の少年団結成二十周年を迎えました。今年は大きな節目として『学校の周りの環境に目を向けよう』と目標を立ていろんな特色ある活動に取り組んでいます。

一つ目の活動は七月に行った水質検査です。ぼくたちの住んでいる真室川の川は、きれいな川かどうかを調べました。石の下にアミを置いて、川の中に住む微生物をつかまえ、どんな川に住んでいる微生物なのかを調べます。予想通り「ヘビトンボ」がたくさんいたので、真室川はとてもきれいな川だと分かりました。

二つ目は、ぼく達の学校には、



どんな鳥が住んでくれるのかな!!

「水辺の楽校」という自然の広場があります。いつも常時活動として木の成長のようすや木に来る鳥などを見たりしています。今年はその水辺の楽校や学校の周りに巣箱を設置しました。どんな鳥が集まって来るのかとても楽しみにしています。

その他に、学校全体での「花いっぱい運動」や近くの森林でおこなわれた「森づくり実感隊inさんぽ山」というイベントへの参加、来年、金山町で開催される全国植樹祭のための「森のホームステイ」という企画への参加など、たくさん活動がありました。

また、七月二十六日と二十七日の二日間、庄内最上地区緑の少年団交流研修会が朝日村大鳥少年の家で行われました。その中で一番に残った思い出は、川遊びです。

川遊びでは、生まれてはじめてのカヌー体験や、めったに見ることのできない「サンショウウオの子ども」を見つけられてとてもうれしかったです。

グリーンアドベンチャーももちろんかったです。他校の人達とチームになり自然とふれあい



大きく育ってね!! 『森のホームステイ』

ながら問題を解いて行きゴールの山頂にたどりついた時は、とても景色がよくて、さわやかな気持ちになりました。

「やっぱり自然はいいなあ」と思いました。

緑の少年団活動を通して、自然とはとても大切な役割をしているんだなあと思いました。これから、いろいろな活動を通して緑を大切に守っていきたいと思います。



伝えたい昔の遊び

森林インストラクター
舟山 功

私が少年時代を過ごした昭和三十年代、ちょうど高度経済成長が始まった頃ですが、テレビは集落の限られた家で一〜二台入った程度で、一般家庭ではまだ貧しい頃だったと記憶しております。子供の遊びといえば、もっぱら自然が相手でした。私の住む町は県内屈指の豪雪地帯で、まだ春早

い三月下旬でも残雪が1m以上もあり、気温が下がった翌日には雪が堅くなり、これを「凍み雪」と称し、普段行かれない山野に、山越えして隣の集落へと一日中歩き回り、野ウサギやヤマドリに遭遇し、木の芽の形や膨らみなどで春を感じていました。春は野のスカナ（スイバ）ド

ングリ（イタドリ）等は酸味がありとても美味しかったです。フジの花が咲き始めると、川で小石を敷き詰めハヤやウグイを採り、ヤツメが産卵のため溯上してくると流れの急な岩場で何度も川に滑り落ちそうになりながらもタモアミで採ったものです。六月にもなるとナタやノコギリを持って山へ行き、立木、杉枝、蔓等で住処を作り食料を持ち込み一晩泊まる、今でいう合宿だ。日中は木の枝で剣を作り、チャンバラで山の中を歩き回り、この「住処」は秋の終わりまで何度も使ったものです。夏から秋にかけての遊びは数多く、ドジョウを採るためハギ

やヤナギを使って「筈^ド」づくり、ドジョウは家の食料確保のため「させられた」という感が強い。また、杉鉄砲作り、けもの道に仕掛けるくぐり罠でウサギ、タヌキ、テン、イタチ等を捕り、アナグマは一番美味しく、次いでヤマドリだったと思う。いま、考えてみると私の少年時代は、五感プラス第六感をフルに使い、自然に触れ楽しみ遊び、人間形成において必要不可欠な社会生活や自主性、協調性を養い身に付けてきたのだと思

って間違いないでしょう。今年、行政や小中学校から活動依頼が多く、土日の殆どは野外に出て嬉しい限りだが、活動するごとにいかに五感を使って自然を感じることが大事な事か、子供達に理解してもらおうために「解説よりも感じてもらう」ことが重要な事であり、解説は

後から付いてくるものだと思うようになりました。



自然観察会 森林学習(針葉樹と広葉樹の違い)

森林の魅力伝える「森の案内人」研修会の開催

○「森の案内人」養成研修会
○「森の案内人」技術向上研修会

一 「森の案内人」養成研修会

「県民の森」・「眺海の森」・「源流の森」・現在整備中の「遊学の森」で来訪者に森林の魅力や伝えたり、体験活動などを支援する「森の案内人」の養成研修会が、九月の各日曜日、四回シリーズで眺海の森と鮭川村エコパークを会場に行われました。

養成研修会は、森林インストラクター等が、森林・林業・指導技術・安全管理の四つの分野について講義を行い受講者はこの講義と実習をおし、森林などの様々な基礎的知識を習得しました。

現在、「源流の森」では百六十名のインタープリターが、「県民の森」と「眺海の森」では合わ

せて八十四名の「森の案内人」が来訪者の案内指導役として活躍しています。

今回の研修を終了した「森の案内人」四十三名は、来年の四月からいよいよ活動に入りますが、積極的な活動をおし、一人でも多くの来訪者に森の魅力を伝えてくれることを期待しています。



室内研修

二 「森の案内人」技術向上研修会

「県民の森」・「眺海の森」・「源流の森」で現在活躍している森の案内人・インタープリターを対象にした「森の案内人」技術向上研修会が十月下旬と十一月上旬の土・日曜日、県森林研究研修センターを会場に四日間の日程でおこなわれました。

この研修は、森の案内人・インタープリターが、森林・林業についての知識を深め、さらに実践の手法等を習得することにより、来訪者の森林に対する理解を一層進めることを目的に、今年度初めて開催されました。

講師は、第一線で活躍されている大学の先生、プランナー等が担当し、森林生態学の講義やプログラムの企画・立案など実践に即したハイレベルな講義が展開されましたが、休憩時間を



野外研修

惜しんでの先生への質問、さらに、この研修を通じ初めて一同に会した三つの森の案内人の情報交換など、大変活発で有意義な研修となりました。

なお、平成十四年度も引き続き「森の案内人」養成研修会と技術向上研修会を実施することになっています。

皆様の御応募をお待ちしています。

〔県森林課〕



講習会の開会



山形県緑を育てる女性の会設立十周年

代表世話人
小山勝子

私たちの「緑を育てる女性の会」は、早いものでもう十年になります。平成三年十一月に設立され、会員の作詞作曲による「あふれる緑」を謳歌し結束してきました。翌年そのテープを持って東京会議に出席。全国でも女性だけで組織された林業グループとしては珍しく、注目されたこと懐かしく思い出されます。

林業体験学習や活動発表、他グループとの交流会、緑の羽根募金、林業まつり、また林道マラソンへの協力、いろいろな面で勉強させていただきました。これも県の林業関係者はじめ、各方面の林業に携わるみなさんの温かいご支援にささえられて育てていただきましたことに感謝しております。

さる十月二十八日には、女性の会設立十周年記念行事、庄内ブロック研修会を兼ね、西川町にあります「山形県自然博物館」で、会員三十数名が参加し盛大に行われました。当日は、秋晴れとはいきませんでした。ちょっと心配な雲ゆきでしたが、それにもかかわらず、久しぶりの懐かしい

さわやかな顔・顔が集いました。県森林課の伊藤主任林業専門技術員にお祝いの挨拶をいただき、ネーチャーセンターで自然とのかかわりについて意見交換、園内をインストラクターの案内で自然探索、時おり雲の間から陽ざしが秋の月山頂上や、私たちを照らし始めました。ひと息つき振り返ると、眼下に広がる平野の大パノラマ、静かだ。日本海へ注ぐ川の源流であるせせらぎの音がどこからともなく聞こえてくる。感動感動の連続でした。自然の雄大さ、緑の豊かさの四季折々に変わる景色を是非見て欲しいと、案内人のコメントもありました。自然の緑から受ける滋養と快い疲れ、食事と温泉風呂と続き、幸せいっぱい有意義な一日研修でした。



博物館内の探索

これまでの活動の中で、飯豊町にある源流の森の「女性の会

絆の森」は、平成九年に活動拠点として植樹、下刈りも今年で四回目になります。杉の枝も大きく広がり、雑草ともはつきり区別が出来るようになって、鎌さばきもやり易く、森林の成長に嬉びをいっぱい感じられます。

来年六月の全国植樹祭、全国林業者大会では私たち緑を育てる女性の会の仲間が一丸となって、女性の繊細な感覚と、これまでの経験を生かし、成功にむけてがんばりたいと思っております。



きのこの効用についての講話

講師には、山形中央クッキングスクール
の校長古田久子氏をお招きしました。先生は、きのこが低カロリー、食物繊維たっぷり
で成人病の予防や美容とダイエットにも効果があり、優れた特徴を持つていることや、香り、味、歯触りが良く、和風・洋風・中華、どんな料理にもマッチする食材であることについて

近年、自然食・健康食ブーム
できのこが注目されております。西村山地方林業振興協議会では、きのこの健康面への効用やおいしい食べ方を一般の方々へ普及し、きのこの消費拡大を図るため平成十一年度からきのこ料理講習会を開催しております。

第三回目は今年、十一月十三日に寒河江市内のハートフルセンターで開催されました。講習会には、寒河江市周辺の二十代から六十代の主婦三十一名が参加しました。今回は、二十代の主婦の参加もあり、若い方の関心も高まってきていることがうかがえました。

現地ルポ

健康食きのこを美味しく食べよう

おいしくおいしくきのこ料理講習会開催



森のキノコのホーロク焼き

てお話しされました。また、シイタケやマイタケ、ブナシメジなどをふんだんに使った「森のきのこのホーロク焼き」や「なめこのサクサク揚げ」最近、人気が高まってきているエリンギを使った「エリンギのミモザ風」など新しいきのこ料理八品の作り方を紹介されました。試食会では、「今まで作ったことのない初めての料理で大変参考になりました」「大変おいしく、家でも是非作りたいです」「きのこの新しい味わい方を知りました



きのこ料理の紹介

また、参加者へのアンケート調査の結果、「きのこは、健康によいため一日一回は食べるようにしたい」「来年も是非講習会に参加したい」などの意見が数多くありました。今後、きのこがますます利用されることで、農山村のきのこ生産振興にも寄与できればと思います。
〔村山総合支庁西村山森林整備課〕

県森林研修センターからのお知らせ 木質残廃材の現状と利用状況について

◇はじめに

資源の有効活用や環境保全が求められるなか、木材を利用する過程で発生する木質残廃材を焼却や廃棄せずに有効活用を図っていく必要があります。

なかでも樹皮や剪定枝については、多くが焼却や廃棄されており、それらの利用技術を開発する課題の基礎資料として、木質残廃材の発生量の現状と利用状況を調査したので結果をお知らせします。

◇アンケート調査結果から

製材業者及び森林組合の土場、各種公園、街路樹等から発生する木質残廃材（端材、オガ粉、樹皮、剪定枝）を対象に関係者からアンケート調査や聞き取り

調査（平成十一年度実績）をおこなったところ、発生量は約四一三千³と推定されます。種類別の木質残廃材の発生量

表-1 事業主体別木質残廃材の発生量

単位：千³

区分	端材	オガ粉	樹皮	剪定枝	計
製材業者	175.0	111.0	116.0	0	402.0
森林組合	1.9	0.7	2.7	0	5.3
森町	0	0	0	4.3	4.3
市民の森等	0	0	0	0.1	0.1
建設事務所	0	0	0	0.4	0.4
空港	0	0	0	0.0	0.0
ダム管理事務所	0	0	0	0.1	0.1
建設省関係機関	0	0	0	0.5	0.5
計	176.9	111.7	118.7	5.4	412.7

注）製材業者の発生量については調査65社の数値を元に総数を推定した。

表-2 木質残廃材の利用率（再利用）

単位：%

区分	端材	オガ粉	樹皮	計
製材業者	97	99	45	83
森林組合	76	100	47	65

注）製材業者の利用率については調査65社の調査結果による。剪定枝の利用率については調査を行っていない。

は端材が一七七千³、オガ粉が一一二千³、樹皮が一一九千³、剪定枝（一般家庭、果樹の剪定枝を除く）が五千³となっています。それぞれの木質残廃材の再利用率は端材、オガ粉は約九〇%と高いものの樹皮は四五%程度と低いことがわかりました。

（表-1・2）

現在の主な再利用方法として端材はチップに、オガ粉は家畜敷料やキノコ栽培の培地として多くが活用されています。しかし、樹皮及び剪定枝は利用技術開発が遅れていることやダイオキシン問題で焼却処分が困難になったことにより、廃棄処理されることが多くなっています。樹皮については



製材工場から発生する樹皮

資源の有効利用の面から堆肥化のほか、家畜敷料など新たな用途のための技術開発が求められています。剪定枝についてはほとんど利用されないうままでしたが今後は粉碎し、雑草防止のマルチング材に利用するなど既存技術の改良を図る必要があります。

◇おわりに

今回の調査で木質残廃材の発生量、処理実態等が明らかになりました。今後は、利用率の低い木質残廃材の利用技術の改良、開発に取り組む予定です。



この清水は、飯豊町大字小白川十文字集落から西南方へ天狗山茶屋まで約四キロメートル、天狗山茶屋から車道終点まで約三キロメートル、さらに徒歩十分の山奥に、天狗山護摩堂があり、その近くのスギの根元から湧き出ている清水で、昔から「煩惱の汚れを流す水」と言われており、今も天狗山茶屋会の方々の手厚い管理のもと年中涸れることなく湧き出ている。水温は、年間をとおして摂氏八〜九度である。
 (山形県森林協会)

山形県の名水・湧水⑳

天狗山護摩堂 清浄水

飯豊町大字小白川

案内図



縁起書によれば、神龜元年創建されたといわれる今熊野神社の境内に神木として育ち、また、月山登拝道角川口の入り口に立つて長い歴史を見つめてきている。樹齢千二百年余、根周十四呎、目通り幹周九・五呎、数本の大枝に分かれるが、いずれも直上して樹高およそ四十呎に達する。ここから南へ約四kmの山中にある今神温泉への途上にあるため「今神の大スギ」の名でも知られている。昭和二十七年四月一日山形県指定天然記念物に指定されている。
 (山形県森林協会)

山形県の古木・名木㉓

角川の大スギ

戸沢村大字角川

案内図



**平成十四年新春林政
懇談会開催のご案内**

日時 平成十四年一月十七日(水)
主催 山形県森林協会

場所 山形県林政推進町村長懇談会
山形市「オーヌマホテル」

講演会

講師 山形大学農学部教授
農学博士 野堀嘉裕氏
演題 「森をつくると
いうこと」

時間 十五時～十六時五十分
参加人員 百七十名
参加費 無料

懇談会

時間 十七時～十八時
会費 五、〇〇〇円

問い合わせ先

山形県森林協会
☎〇二三一六三一六五六六
山形県森林課
☎〇二三一六三〇一二五二二

**山形県木炭品評会・講演会
炭焼き体験ツアーのご案内**

木炭品評会・講演会

二月十九日(火)

・表彰式 十二時三十分～
・知事賞、飯豊町長賞等
・講演会 十三時～
東北カーボン(株)

社長 村山勝四郎氏
演題 「暮らしの中に木炭を」

会場 飯豊町民センター
「あくす」研修室

・参加費 無料

炭焼き体験ツアー

二月十五日(金) 十時～十六時

・内容 炭焼き体験(白炭窯等)
お花炭・クラフト制作

・会場 白鷹町「パレス松風」
・募集人員 三十名程度
・参加費 二、〇〇〇円

問い合わせ先

西置賜ふるさと森林組合
☎〇二三八八八六一二三一〇
置賜総合支庁西置賜森林整備課
☎〇二三八八八八一五一

もり
森林の鼓動が聞こえますか…
森林を守り育てる「林業従事者」の育成と確保を目指して


うるおいあるふるさとづくり
もり
森林・人・未来

財団法人**山形県林業従事者育成基金**
(山形県林業労働力確保支援センター)
☎990-2334 山形市蔵王成沢字町浦535番地
山形県森林組合連合会内
電話(023)688-8220 F A X (023)688-8103

山形県林業機械化協会
林業機械化の先端情報をすばやく提供
会長 奥山宇作 (㈱ヤンマー農機山形 村山支店)

会員社名 (所在地)	会員社名 (所在地)
(株)ヤンマー農機山形村山支店 (村山市大字榎山)	日立建機(株)山形支店 (東根市大字若木字七窪)
(株)村上キカイ (酒田市両羽町)	(有)東栄重車輛 (天童市大字清池字金石段)
(株)村山商工 (米沢市松が岬)	コマツ山形(株) (山形市蔵王成沢字町浦)
東北建設機械販売(株)山形支店 (天童市高掬字金石段南)	エレクトラックスジャパン(株) (盛岡市津志田)
(有)林和機工 (山形市馬見ヶ崎)	東北ヤンマー(株)東日本営業部 (仙台市宮城野区福田町南)
山形県森林組合連合会 (山形市蔵王成沢字町浦)	(株)筑水キャニコム仙台センター (仙台市太白区茂庭字人來田西)
東北共立エコー(株)山形営業所 (東根市大字郡山字ノギハ)	(株)南星仙台営業所 (仙台市太白区砂押南町)
イワフジ工業(株)営業本部東北支店 (水沢市桜屋敷西5-1)	(株)山工社 (山形市宮町)


山形県林業機械化協会事務局 山形市桜町2-35(林業会館内) TEL 023-633-1536 FAX 023-624-0804



活かしてみましょ
冬のボーナスは
農林中金へ!

確定利回りの1年貯蓄
ワリノ

投資信託



どなたでもお気軽に

農林中央金庫山形事務所
〒990-0042 山形市七日町3-1-11
☎(023)641-6271


—全国食用きのこ種菌協会会員—
〒999-7757
山形県東田川郡余目町払田字村東17-2

**株式会社
河村式種菌研究所**

お問い合わせは：電 話 0234(42)1122(代)
F A X 0234(42)1124
青森県営業所：青森県三戸町同心町 電話 0179(23)3582

きのこ作りなら。
◎形質を誇る！
○しいたけ・なめこ

ひらたけ・まいたけ・ぶなほりたけ
くりたけ・たもぎたけ・むぎたけ
その他きのこ種菌



	樹材種		材長	品等	1m ³ 当り価格	前月比較	
	素 材	スギ小丸太		3.65~4.00m	込	11,800円	± 0
スギ中丸太			//	//	16,100円	300	
スギ大丸太			//	//	19,600円	700	
米マツ中丸太			6.0m~	普通材	19,200円	± 0	
米マツ大丸太			//	//	23,200円	± 0	
北洋アカマツ中丸太			3.8~	//	17,400円	200	
製 品	樹材種	厚	幅	長	品等	1m ³ 当り価格	前月比較
	スギ柱	10.5cm	10.5cm	3.00m	特等	60,200円	100
	米マツ柱	10.5cm	10.5cm	4.00m	//	56,200円	-200

木材市況

(十一月一日現在)

印刷所 渡辺活版所 定価 一部二〇円

森林やまがた12月号 平成13年12月1日発行 通巻第57号

編 集 山形県森林協会 山形県
発 行 山形県森林協会
〒990-0045 山形市桜町2-35 林業会館内
TEL 023-631-6566 023-622-8823
FAX 023-631-6573

「ゆとり都」森林課ホームページ <http://www.pref.yamagata.jp/ns/shinrin/index.html>
第53回全国植樹祭ホームページ <http://www.shokujusai-yamagata.jp>